

オープンOSの近未来 ここまで来た, これからこうなる

司会: 青山 幹雄 (南山大学)

パネリスト

吉岡 弘隆
(ミラクル・リナックス取締役戦略
担当・CTO,
OSDL理事)

鈴木 大輔
(ヴァインカーブ
代表,
日本Linux協会
副会長)

鵜飼 文敏
(日本HP
主幹研究員,
日本Linux協会
会長)



パネルの背景

👉 オープンソースソフトウェアの浸透

👆 Linux, Apache, アプライアンスサーバ製品

👉 オープンソースソフトウェアの課題・不安

👆 品質保証, 保守/機能追加, リリース管理

👆 オープンソースを用いた開発のノウハウの欠如

👆 ライセンス

👉 オープンソースソフトウェア工学からのフィードバック

👆 インクリメンタル開発, インターネット上での協調開発



**技術とビジネスの観点から
オープンOSの現状と今後を明らかにする**



オープンソースソフトウェアの広がり

- ➡ 基盤を中心に多くのオープンソースソフトウェアの開発
- ➡ インターネットソフトウェアでの地位確立
- ➡ 高度なソフトウェアの開発へ: アプリサーバなど

オフィス
アプリケーション:
StarSuite(StarOffice)

エディタ: Emacs

Webブラウザ: Mozilla,
Lynx, Amaya

GUI: GNOME, KDE
X Windows

アプリケーションサーバ:
JBoss(EJB/J2EE)

インターネットサーバ:
Apache/ApacheSOAP
(HTTPサーバ),
Sendmail
(電子メールサーバ),
BIND(DNSサーバ)

開発支援ツール:
CVS(構成管理)

プログラム/スクリプト
言語と処理系:
GCC(Cコンパイラ),
Perl, Python, PHP,
TCL/TK, Jikes(Java)

DBMS:
PostgreSQL, MySQL

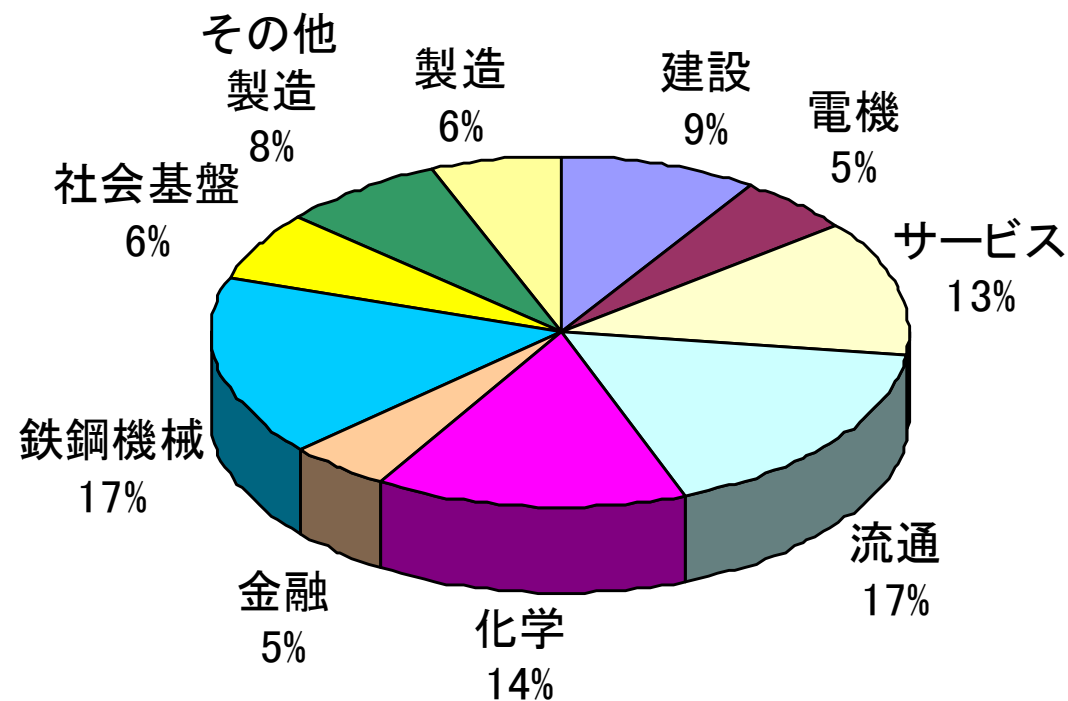
OS: Linux, FreeBSD



オープンソースの利用実態

👉 JISA(情報サービス産業協会)オープンソース調査委員会の利用実態調査

- 👉 実施: 2002年2月
- 👉 対象: 情報システム部門を持つ従業員50人以上のユーザ企業517社[ベンダは入っていない]
- 👉 ほぼ全業種を網羅



アンケート回答企業の業種分布

報告書はJISAから入手可能

オープンソースビジネスの動向調査報告書, (社)情報サービス産業協会, 13-J010, Mar. 2002.

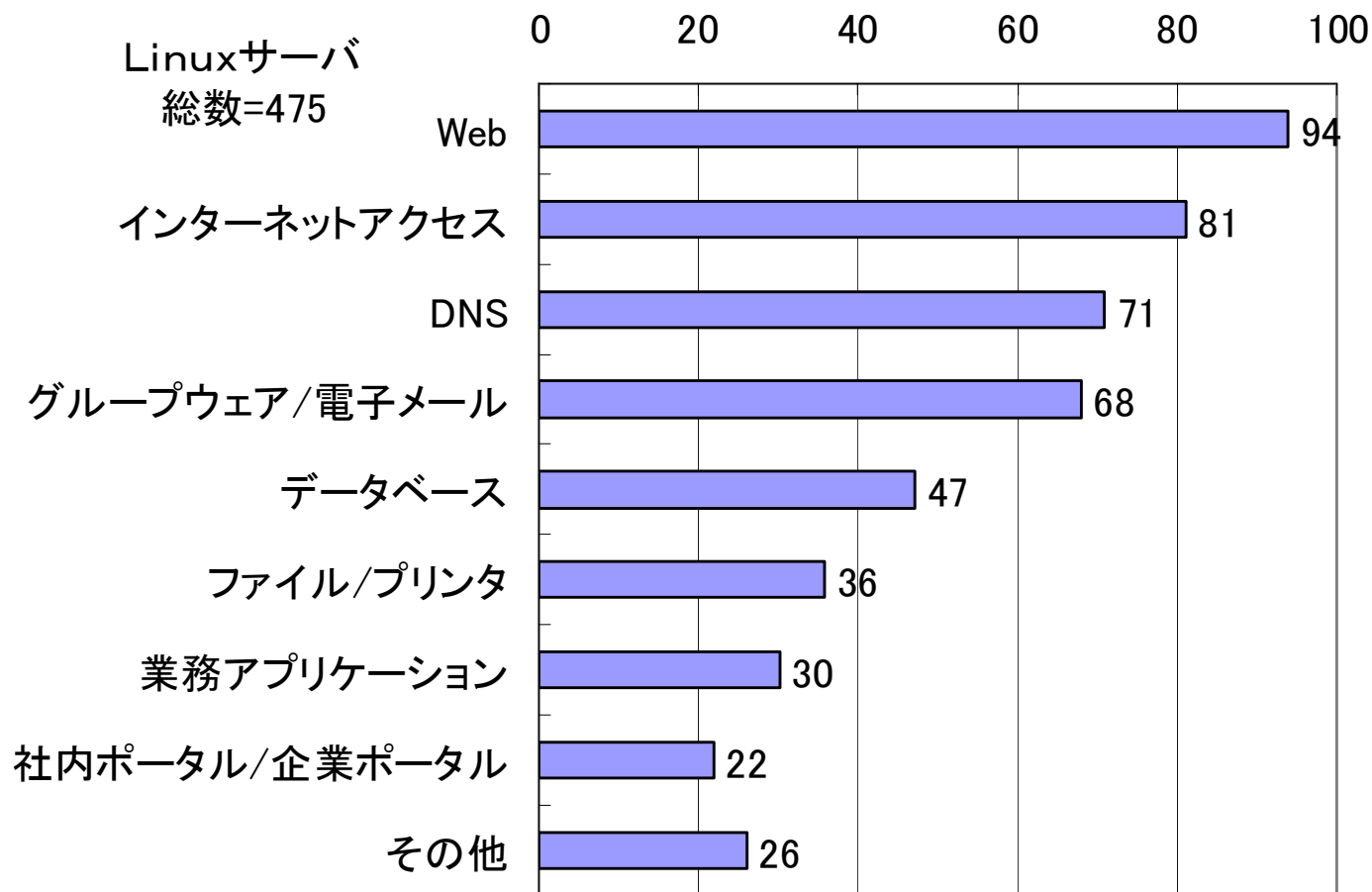


オープンソースの利用実態

👉 Linuxの用途

👉 Web/DNSなどのインターネットサーバ

👉 DBサーバなどへも普及





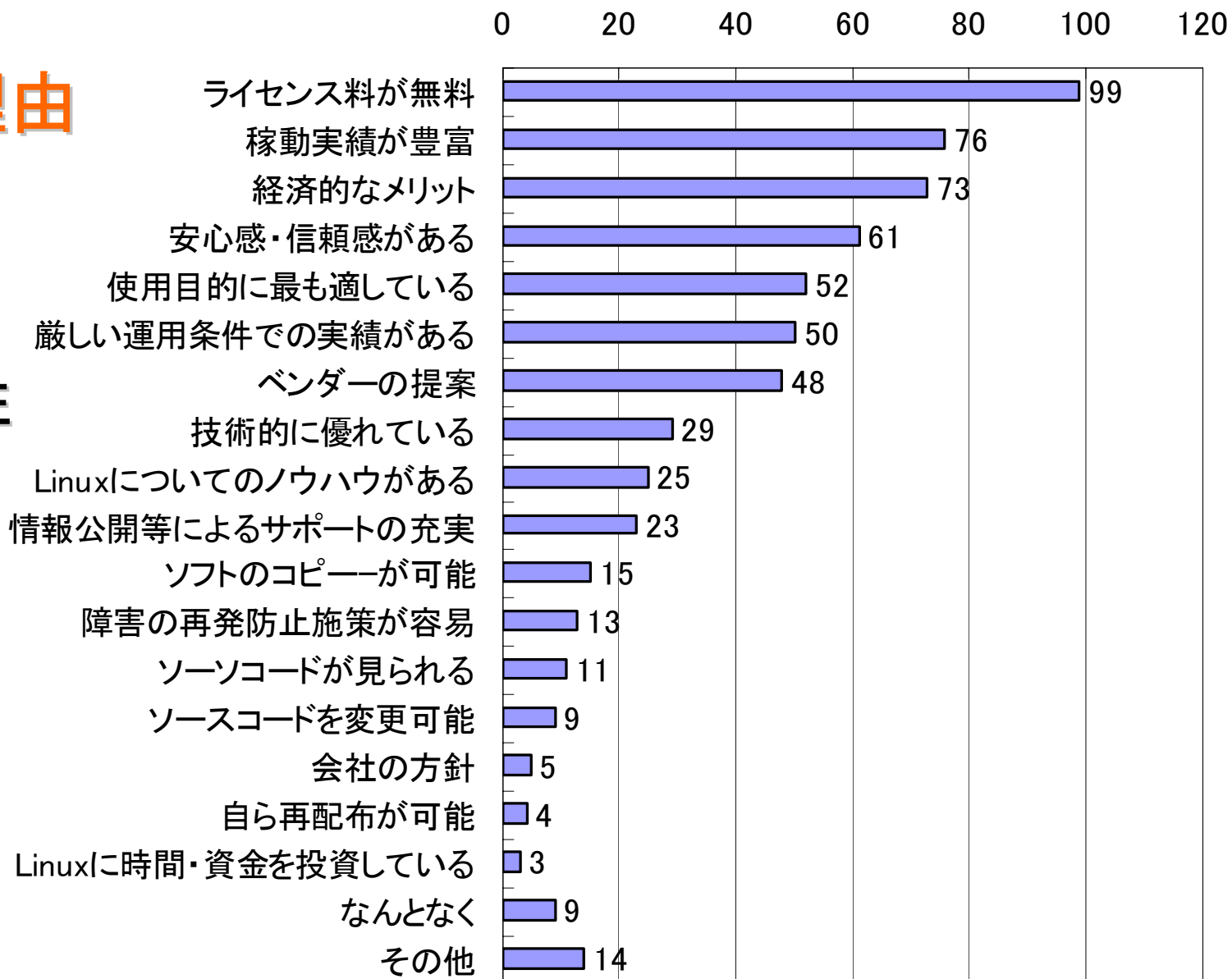
オープンソースの利用実態

👉 Linux採用理由

👉 コスト

👉 自らの実績

👉 安心・信頼性





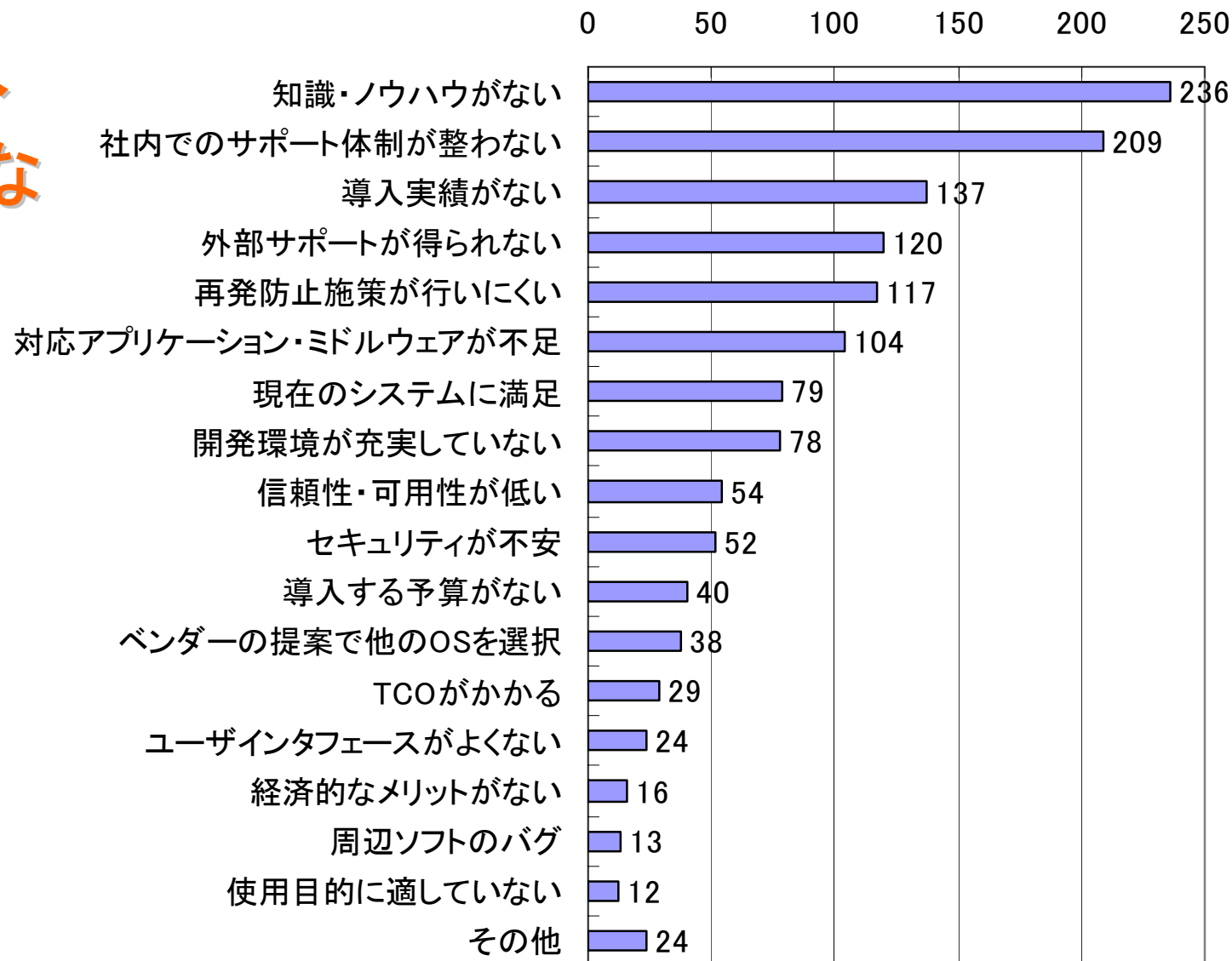
オープンソースの利用実態

👉 基幹システムへ Linuxを採用しない理由

👉 ノウハウなし

👉 社内/外部サ
ポートなし

👉 社内での実績





オープンソースの利用実態

オープンソースの評価

評価する

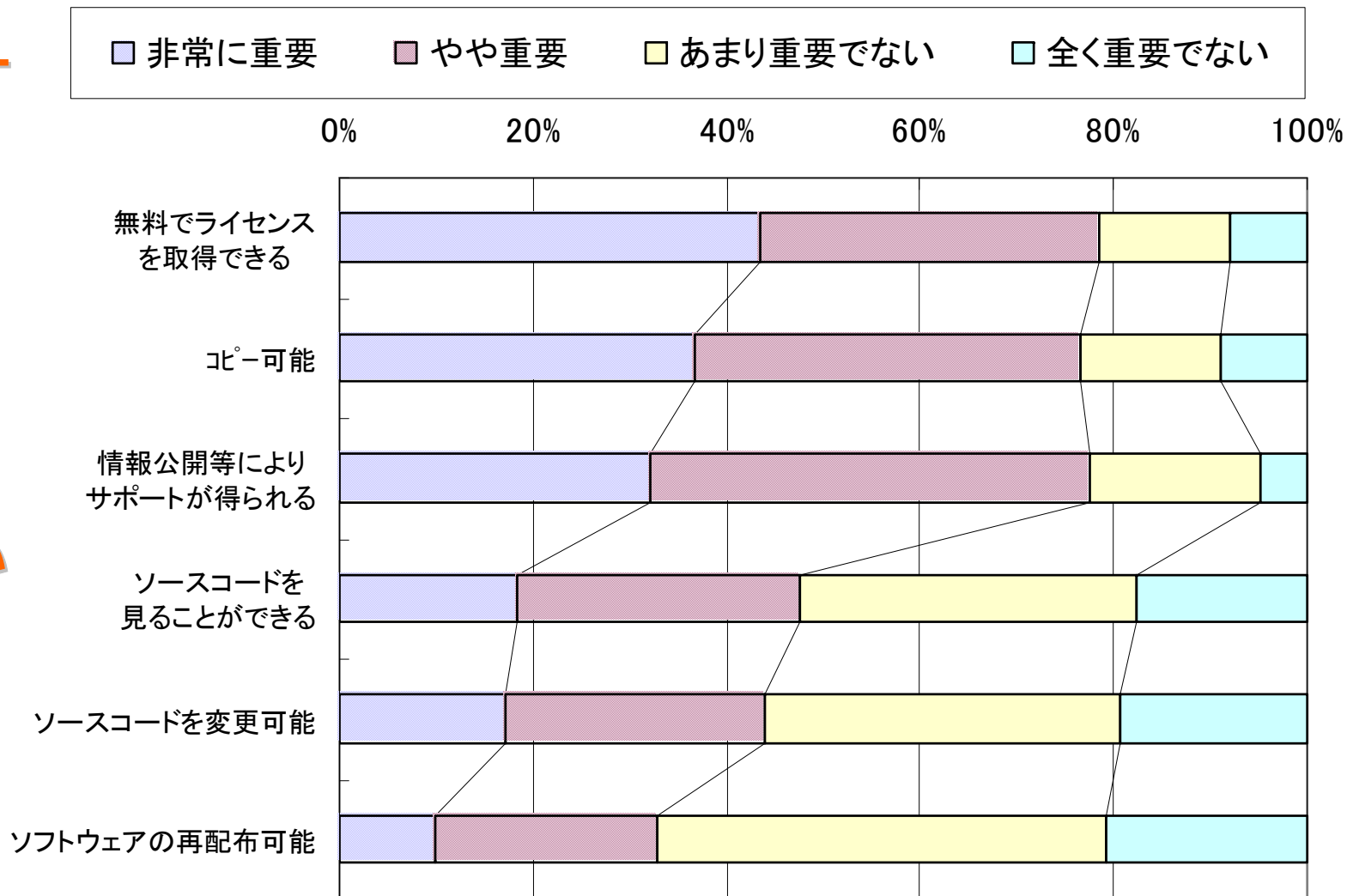
コスト

情報公開

評価しない

変更可能

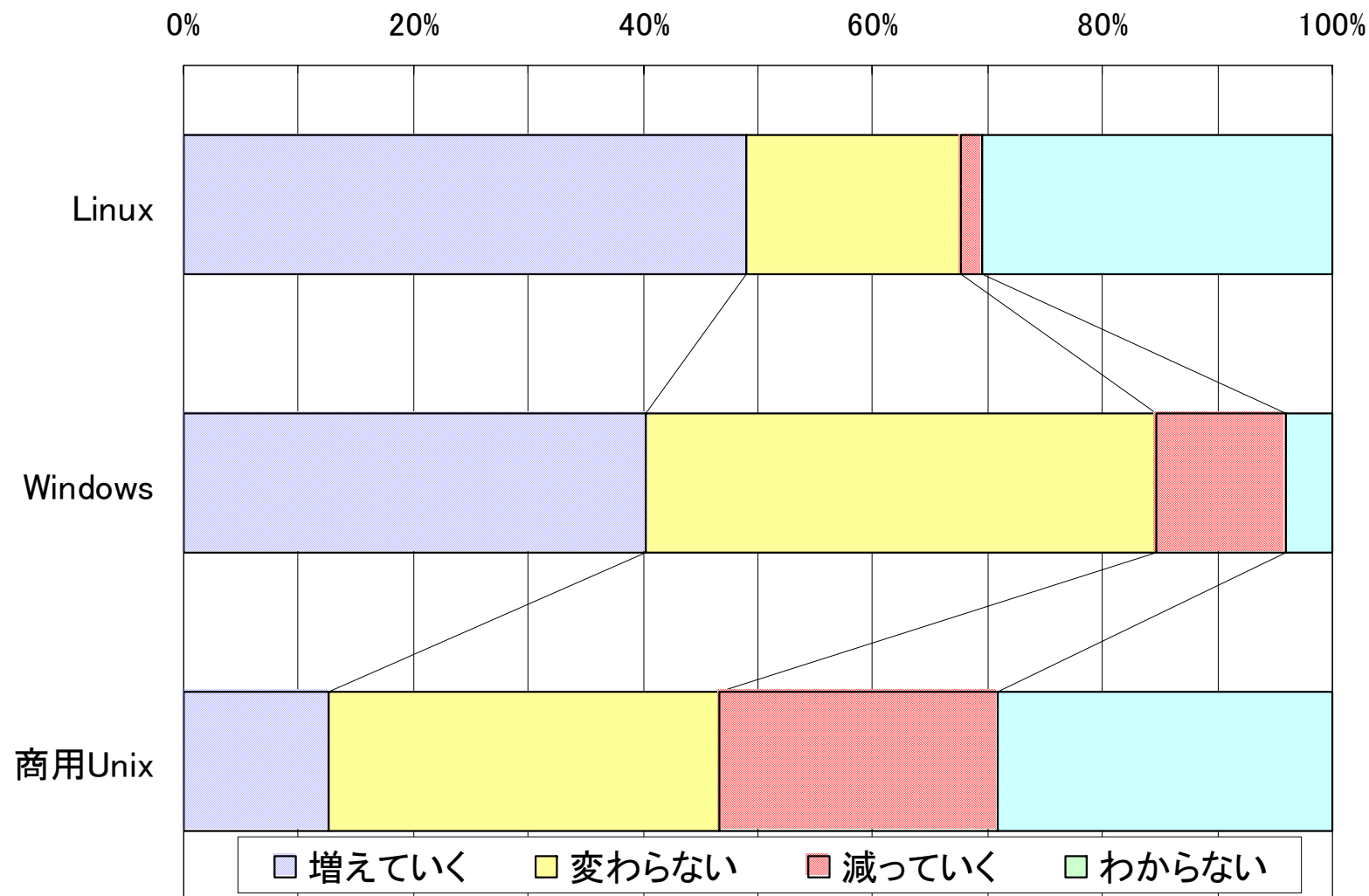
再配布





オープンソースの利用実態

👉 3年後に自社で利用するOSの種類





オープンソースを利用するビジネスモデル

ソフトウェアビジネスとコミュニティ

ディストリビューション[出版]

オープンソースソフトウェアの
評価とパッケージ化
品質保証

インテグレーション

オープンソースソフトウェアを組み
込んだSIやソリューションビジネス
コンサルティング



コミュニティ

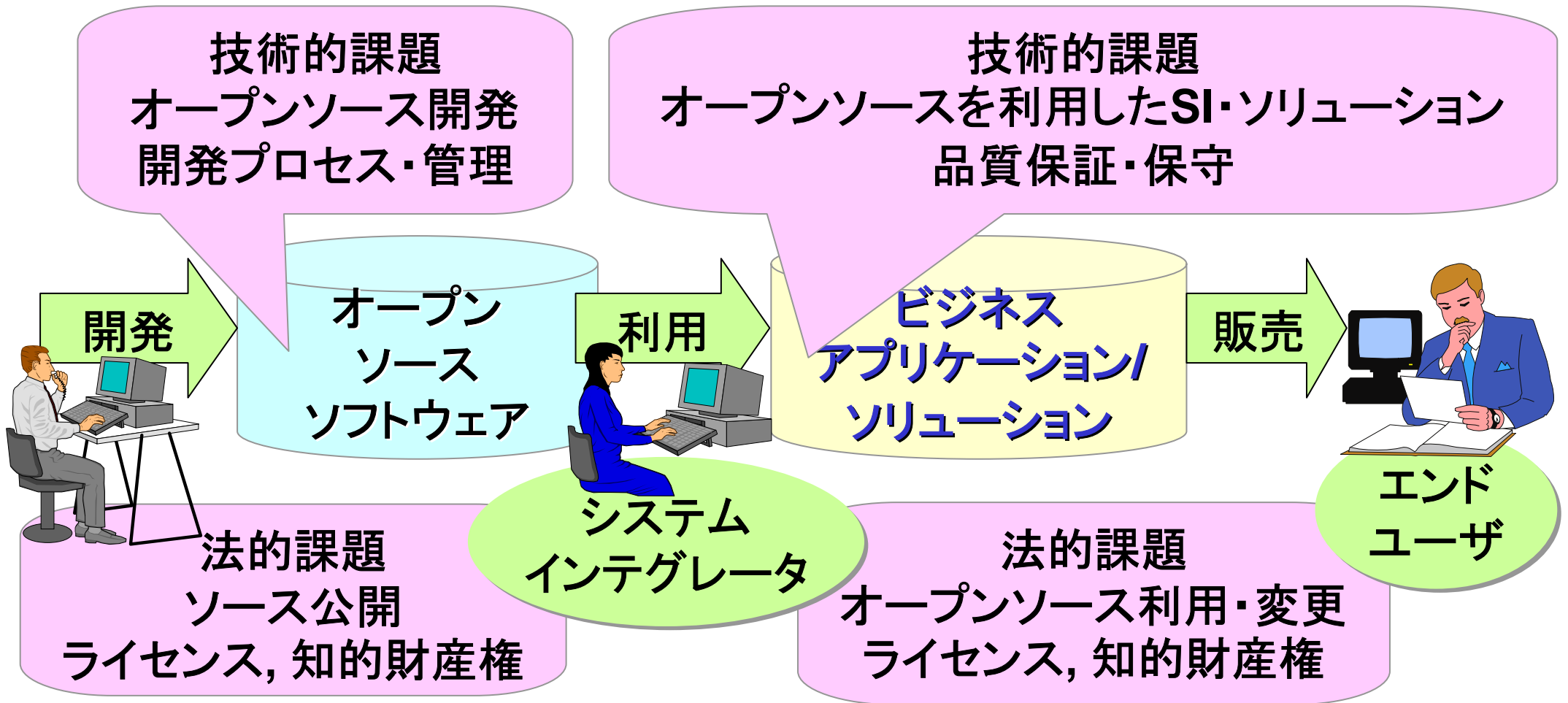
技術・ソフトウェアの支持者
普及・改善の媒体
標準化

保守・技術支援サービス

オープンソースソフトウェアの保守, 問
題発生時の技術支援, コンサルティング



オープンソースを利用するビジネスの課題





パネル討論

👉 パネリストのオープンOSとの関わり

👉 技術面での現状と今後の方向

👉 オープンソースの技術的メリット

👉 オープンソースの特性

👉 性能, 信頼性

👉 適用領域の特性: ミッションクリティカル, 組込みなど

👉 技術面での今後の方向

👉 ビジネス面での現状と今後の方向

👉 適用事例: 代表例など

👉 オープンソースを利用する具体的効果

👉 エンドユーザの視点, あるいは, ベンダ/SIの視点

👉 今後のオープンソースビジネスの方向